

# 震災を見届ける

東日本大震災後の社会と心

二〇一一年三月十一日、二万人近くの命と生活と産業の基盤を一瞬にして奪い、いまなお聞わねばならない放射能汚染という見えない敵を生み出した東日本大震災を私たちは経験しました。「あの日の出来事」は一生心に刻みこまれるだろうと、あの時、誰もが思いました。当時中学生ぐらいたった人たちも、大変なことが起こったと感じたの思い出すでしょう。

ところが七年経つたいま、そのときの記憶と教訓は日常の中に埋没し、ステレオタイプなメディア報道が時折伝える「復興」という抽象的なイメージに置き換えられ、私たちは自分自身の目の前の課題に翻弄されながら、日々を過ごすようになったのではないのでしょうか。

セピア色になりつつある多くの国民の意識とは裏腹に、現地は大きく変わりつつあります。帰宅困難地域に人々が戻り始め、汚染された土砂を無数のトラックが日々運び出す中で、変わり果てた故郷の中で生活を模索し始めています。一方で、当時まだ物心のついていなかった子どもたちは、一見震災などなかったかのように、今をたくましく生きています。うに見えます。しかし多くの友だちは、避難先から戻つてこないのです。

そこには日本がこれから解決していかなければならない真の問題とは何か、そしていまの日本人が、そして「人間」が生きていくということは、どういふことを教えてくれるホンモノの「教材」が凝集されています。

いまはボランティア以上に、「震災のいま」を見届け、そこから自分にとっての課題を見つくるべきときではないかと思われれます。この講座はそのために文学部の教員が中心となって企画しました。夏休みに実施した宮城・石巻訪問に続いて、今回は福島を現地学び、ディスカッションで考える場を作りました。もしこの企画に少しでも心に響く「何か」を感じたら、ぜひご参加ください。

実行委員 (文学部教授)

安藤寿康

萩野安奈

糸川麻里生

川島建太郎

後藤文子

## 放射線被害を見届ける

### ～福島県楢葉町の子どもたちとの交流と 福島第一原子力発電所見学会

帰宅困難地域が解除され、人々が戻りつつある町、楢葉町の小学生との交流を作り上げるとともに、あの福島第一原子力発電所の中まで入って見学を行います。

**日程: 2019年2月6日(水)～7日(木)**

打ち合わせ: 2018年12月25日(火) 18:00～19:30 三田キャンパス南校舎 474番教室

対象者: 慶應義塾に所属する高校生・大学生・大学院生・留学生

参加費: ¥15,000 (三田からの往復交通費と宿泊費の実費, 食費別)

応募の仕方:

件名を「福島訪問希望」としてあなたの「氏名・慶應義塾内の所属・学年」

を明記して、**12月22日(土)まで**に、[ishinomaki@flet.keio.ac.jp](mailto:ishinomaki@flet.keio.ac.jp)

にお送りください。

この講座では、映画鑑賞、講演会、シンポジウム等を予定しています。

